

## 文学部の教員の養成の目標

### <文学部 総合人文学科>

文学部総合人文学科では、言語と文学、思想と文化、歴史と地理、教育と心理といった多様な切り口から「人文学」という深い知の森にアプローチし、これまでの人類の営みや人間社会の有り様を学び、検討し、捉え直すことを通じて、新しい時代にふさわしい人間像を探求していく。そして、新しい時代を切り拓き、新しい価値を創造する人材を養成する。このような「幅広い教養」を身に付けた後には、それを土台とした「深い専門性」を身に付け、人文学各分野の専門性とそれを俯瞰する総合性を兼ね備えた21世紀型市民の育成を目指している。この教育理念のもと、(1)現代の知的営みの一環である人文学に対する幅広い理解に基づき、専門分野の知識を体系的に述べることができる技能、(2)「考動力」を発揮して、自ら課題を発見し、人文学の知見と方法に照らして多角的に探求し、思考の過程を的確に表現することができる能力、(3)社会や文化の多様性を把握し、他者とのコミュニケーションの中で自己を自律的に確立していくことができる主体的な態度、の3つを身に付けることが目標となる。この3つを土台として、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びに、それらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 中一種免 英語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。そのうえで、具体的には、下記の専修において「英語」科教員の養成のための科目を設置している。

- ・英米文学英語学専修においては、英米文学または英語学のいずれかを重点的に研究することを通じて、英語圏の文学と言語を専門的に学ぶ。英米文学では、小説、詩、劇、児童文学、日英比較文学、文学翻訳、文学理論、原作の映像化、文学におけるジェンダーやエスニシティなどについて学び、一方英語学では、統語論・意味論、音声学・音韻論、語用論・社会言語学、英語史、メタファー論、認知言語学、日英語対照研究、翻訳論などについて学ぶ。またこれらの専門的研究の土台となる英語運用能力を向上させるとともに、英語圏世界の教養を身につける。

- ・英米文化専修においては、日本語および英語で行われる授業を通じて英語圏の文化を学ぶことにより、発信型スキルを含む実用的な英語運用能力とクリティカルな思考能力を高めている。英語による講義や専門語学科目により英語を媒介として高度な内容を学ぶ技術の向上をはかる一方で、文化研究、環境・飲食文化論、表象文化論、黒人文化研究、映画・翻案研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究など幅広い専門分野を学際的・横断的に学ぶことを通じて、英語圏世界の文化についての総合的な知を育てている。

これらの系統立った学びの中で、学生は豊かな教養と高度な専門知識を身につける。中学校「英語」の教職課程では、そのような高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(英語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞く/読む/話す/書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(英語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(英語)の背景にある文化に対する理解を深め、そのような文化的背景に配慮しながら、主体的に外国語(英語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。これらの能力を基として、生徒に対して、外国語(英語)についての基本的な知識を伝授し、外国語(英語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、伝え合ったりすることができる力を育成するような教科指導力を身につける。さらには、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においても、これらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 高一種免 英語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。そのうえで、具体的には、下記の専修において「英語」科教員の養成のための科目を設置している。

・英米文学英語学専修においては、英米文学または英語学のいずれかを重点的に研究することを通じて、英語圏の文学と言語を専門的に学ぶ。英米文学では、小説、詩、劇、児童文学、日英比較文学、文学翻訳、文学理論、原作の映像化、文学におけるジェンダーやエスニシティなどについて学び、一方英語学では、統語論・意味論、音声学・音韻論、語用論・社会言語学、英語史、メタファー論、認知言語学、日英語対照研究、翻訳論などについて学ぶ。またこれらの専門的研究の土台となる英語運用能力を向上させるとともに、英語圏世界の教養を身につける。

・英米文化専修においては、日本語および英語で行われる授業を通じて英語圏の文化を学ぶことにより、発信型スキルを含む実用的な英語運用能力とクリティカルな思考能力を高めている。英語による講義や専門語学科目により英語を媒介として高度な内容を学ぶ技術の向上をはかる一方で、文化研究、環境・飲食文化論、表象文化論、黒人文化研究、映画・翻案研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究など幅広い専門分野を学際的・横断的に学ぶことを通じて、英語圏世界の文化についての総合的な知を育てている。これらの系統立った学びの中で、学生は豊かな教養と高度な専門知識を身につける。高等学校「英語」の教職課程では、そのような高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(英語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞く/読む/話す/書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(英語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(英語)の背景にある文化に対する理解を深め、そのような文化的背景に配慮しながら、主体的に外国語(英語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。これらの能力を基として、生徒に対して、外国語(英語)についての基本的な知識を伝授し、外国語(英語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、伝え合ったりすることができる力を育成するような教科指導力を身につける。さらには、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においても、これらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 中一種免 国語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、国語国文学専修において、国文学コースでは、上代文学（『万葉集』『古事記』『日本書紀』などの奈良時代の文学）、中古文学（『源氏物語』『枕草子』などの平安時代の文学）、中世文学（『平家物語』『徒然草』や説話などの鎌倉・室町時代の文学）、近世文学（西鶴、芭蕉、近松などの活躍した江戸時代の文学）、近代文学（夏目漱石や志賀直哉などの活躍した明治・大正期の文学）、現代文学（川端康成や村上春樹などの活躍した昭和から平成にいたる現代の文学）といった時代ごとの文学作品や文学者を対象に、国語学コースでは、日本語の音韻・語彙・文法のしくみ、その多様性や歴史的変化などを対象に、さまざまな角度・視点から多様に学ぶことにより、芸術・文学・文化・言語の本質を追及し、人間の存在や在り方を考えている。また、アジア文化専修では、「中国古典文講読a、b」「漢字・漢文論Ⅰ、Ⅱ」「中国思想文化論Ⅰ、Ⅱ」などを開設し、漢文学の領域について、漢文読解力の養成・専門的知識の教授を行っている。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、中学校「国語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする、(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う、(3)言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、わが国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。これらの能力を基として、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 高一種免 国語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、国語国文学専修において、国文学コースでは、上代文学（『万葉集』『古事記』『日本書紀』などの奈良時代の文学）、中古文学（『源氏物語』『枕草子』などの平安時代の文学）、中世文学（『平家物語』『徒然草』や説話などの鎌倉・室町時代の文学）、近世文学（西鶴、芭蕉、近松などの活躍した江戸時代の文学）、近代文学（夏目漱石や志賀直哉などの活躍した明治・大正期の文学）、現代文学（川端康成や村上春樹などの活躍した昭和から平成にいたる現代の文学）といった時代ごとの文学作品や文学者を対象に、国語学コースでは、日本語の音韻・語彙・文法のしくみ、その多様性や歴史的変化などを対象に、さまざまな角度・視点から多様に学ぶことにより、芸術・文学・文化・言語の本質を追究し、人間の存在や在り方を考えている。また、アジア文化専修では、「中国古典文講読a、b」「漢字・漢文論Ⅰ、Ⅱ」「中国思想文化論Ⅰ、Ⅱ」などを開設し、漢文学の領域について、漢文読解力の養成・専門的知識の教授を行っている。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、高等学校「国語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする、(2)生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす、(3)言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、わが国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。これらの能力を基として、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮する教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 中一種免 ドイツ語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、ヨーロッパ文化専修ドイツ言語文化コースにおいて、ドイツの言語・文学・文化の基礎知識をバランスよく、幅広く学ぶとともに、これらの専門的研究の大前提となるドイツ語運用能力を高め、ドイツを中心とするヨーロッパの豊かな文化に関して幅広い知識とみずみずしい感性を身に付ける。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、中学校「ドイツ語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(ドイツ語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(ドイツ語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(ドイツ語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語(ドイツ語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。以上のようなスキルを土台にして、外国語(ドイツ語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(ドイツ語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 高一種免 ドイツ語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、ヨーロッパ文化専修ドイツ言語文化コースにおいて、ドイツの言語・文学・文化の基礎知識をバランスよく、幅広く学ぶとともに、これらの専門的研究の大前提となるドイツ語運用能力を高め、ドイツを中心とするヨーロッパの豊かな文化に関して幅広い知識とみずみずしい感性を身に付ける。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、高等学校「ドイツ語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(ドイツ語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(ドイツ語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(ドイツ語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(ドイツ語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。以上のようなスキルを土台にして、外国語(ドイツ語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(ドイツ語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 中一種免 フランス語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、ヨーロッパ文化専修フランス言語文化コースにおいて、フランスの言語・文学・文化の基礎知識をバランスよく、幅広く学ぶとともに、これらの専門的研究の大前提となるフランス語運用能力を高め、フランスを中心とするヨーロッパの豊かな文化に関して幅広い知識とみずみずしい感性を身に付ける。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、中学校「フランス語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(フランス語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(フランス語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(フランス語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語(フランス語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。以上のようなスキルを土台にして、外国語(フランス語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(フランス語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 高一種免 フランス語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、ヨーロッパ文化専修フランス言語文化コースにおいて、フランスの言語・文学・文化の基礎知識をバランスよく、幅広く学ぶとともに、これらの専門的研究の大前提となるフランス語運用能力を高め、フランスを中心とするヨーロッパの豊かな文化に関して幅広い知識とみずみずしい感性を身に付ける。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、高等学校「フランス語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(フランス語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(フランス語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(フランス語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(フランス語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。以上のようなスキルを土台として、外国語(フランス語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(フランス語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 中一種免 中国語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、アジア文化専修中国言語文化コースにおいて、急速に存在感を増す中国につき、中国語の習得を通して中国語圏文化の学びを深め、言語/思想/文学/異文化接触などさまざまな分野の研究に取り組むとともに、これらの専門的研究の大前提となる中国語運用能力を高め、中国を中心とするアジアの伝統と現代の豊富で多彩なテーマに触れ、アジア文化をトータルに理解している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、中学校「中国語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(中国語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(中国語)で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(中国語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語(中国語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。これらの能力を基として、外国語(中国語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(中国語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 高一種免 中国語)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。

具体的には、アジア文化専修中国言語文化コースにおいて、急速に存在感を増す中国につき、中国語の習得を通して中国語圏文化の学びを深め、言語/思想/文学/異文化接触などさまざまな分野の研究に取り組むとともに、これらの専門的研究の大前提となる中国語運用能力を高め、中国を中心とするアジアの伝統と現代の豊富で多彩なテーマに触れ、アジア文化をトータルに理解している。

これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、高等学校「中国語」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)外国語(中国語)の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする、(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語(中国語)で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う、(3)外国語(中国語)の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語(中国語)を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。これらの能力を基として、外国語(中国語)によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語(中国語)による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 中一種免 社会)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に所属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。そのうえで、具体的には、下記の専修において「社会」科教員の養成のための科目を設置している。

・哲学専修においては、哲学、倫理学、宗教学、芸術学の学問分野において「社会」科教員の養成に次のような学びをとおして寄与している。すなわち、哲学と倫理学においては、古代から近代を経て現代にいたるまでの哲学・倫理学の重要思想を学ぶとともに、鋭敏な問題意識と論理的な思考力をもって新しい問題（環境問題、生命技術、ネット社会のあり方、ロボットやAI等々）や自分自身の考えたいテーマにとりくむ学生を養成している。本専修は他専修・他学部の学生も履修する倫理学概論・哲学概論等の教職関連科目を提供している。そこでは、倫理学や哲学の基礎知識だけでなく、それらを通して人間像や社会のあり方の歴史的変遷にも注意を向けさせ、学際的な関心をもった教師の育成をめざしている。宗教学では、仏教、キリスト教、イスラーム、神道、新宗教などの諸宗教、さらに、日本思想、民間信仰、スピリチュアリティ、現代日本人の宗教意識などの事柄について、宗教学、比較思想学、宗教哲学、仏教学・インド学、日本思想史学、キリスト教学、イスラーム思想史学、神話学、歴史学、人類学など関連するさまざまな分野で培われてきた学術的方法を適用することで得られる、多角的かつ多様な知について学ぶ。それを基盤として、グローバル化、情報化、少子高齢化、孤立化といった現代の諸問題、また、それらに付随する、異文化交流・共生、生きがいの創造、相互理解と扶助等の課題への対応も見据えた、時代を超えて広く通用する豊かな教養、地球的視野に立って時代の変化に適切に対応して生きるための技術と知恵、さらに教員としての職務において実践的に活用し得る専門的知識を習得する。芸術学では古代から現代にいたる芸術活動の本質を、演劇・映画・音楽・アニメーションなどを通して幅広く考察する。

・日本史・文化遺産学専修においては、日本史学と文化遺産学の2つを柱とし、日本の政治・経済・社会・思想・宗教及び文化遺産などの多様なテーマを、主として歴史という時間軸に沿って、幅広い視点から総合的に調査研究を行っている。日本史学コースには、古代史・中世史・近世史・近現代史など主に文献史料を扱う分野と、考古学・民俗学など主に出土遺物・遺跡や現代に残る伝統儀礼・習俗などを調査する分野が用意され、文化遺産学コースでは、日本を中心とする文化遺産をはじめ、地域に残る有形無形の文化財について学び、それぞれの視点から、人類の過去・現在・未来を考える力を養う。これにより、歴史的な見方・考え方による課題の追求・解決を指導しうる社会科教員の

養成を行っている。

・世界史・地理学専修においては、世界史と地理学の2つを柱とし、過去から現在、そして世界から身近な地域まで、幅広く人間社会を理解することを目指す。歴史資料や地理・地図情報を基に、時空間情報を活用しながら研究活動を深めていく。世界史コースでは、現代世界の成り立ちを深層から理解するために、「東洋史」と「西洋史」という従来の枠組みにとどまらない広い視野から、古代から現代にわたる人類の過去を見つめ、独自の歴史像をつくり、現在の問題を探究し、未来を展望する力を養う。そのために、歴史理解の基礎となる文献および史資料の扱いと、歴史をとらえる多様な視点(歴史観)についての確固たる知識を習得する。地理学コースでは、自然地理学・人文地理学・地誌学といった「地理学」の基礎知識を蓄えた上で、フィールドでの情報収集や地理情報システムによる分析の手法を習得し、社会の姿と変容をマルチスケールで実証的に研究する実践力を養う。またその実践力を保証する資格取得を通して、現代社会にシームレスに接続する人材養成を行う。

・教育文化専修において、学校教育はもちろんのこと、人間の成長や発達をさまざまな角度から深く考察する教育哲学から、市民性教育、学校現場において急速に変化を遂げている情報機器や情報環境、教育のデジタル化等に対応した情報活用能力の育成(情報リテラシー教育)、図書館情報学、教育法制度など、教育について多角的・総合的に学び、現代の知識基盤社会における生涯にわたる人間形成を総合的に理解する。

なお、教職に関する科目の設置に加えて、中学校「総合的な学習の時間」、高等学校「総合的な探求の時間」の授業運営に対応できる人材育成をも目標にするため、図書館情報学課程の科目や生涯学習関連の科目を大学独自の全免許教科共通科目として設定している。

こうした専修による系統立てた学びの中で、豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、中学校「社会」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める、ことを目指す。そして、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高

い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 高一種免 地理歴史)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。そのうえで、具体的には、下記の専修において「地理歴史」科教員の養成のための科目を設置している。

・日本史・文化遺産学専修においては、日本史学と文化遺産学の2つを柱とし、日本の政治・経済・社会・思想・宗教及び文化遺産などの多様なテーマを、主として歴史という時間軸に沿って、幅広い視点から総合的に調査研究を行っている。日本史学コースには、古代史・中世史・近世史・近現代史など主に文献史料を扱う分野と、考古学・民俗学など主に出土遺物・遺跡や現代に残る伝統儀礼・習俗などを調査する分野が用意され、文化遺産学コースでは、日本を中心とする文化遺産をはじめ、地域に残る有形無形の文化財について学び、それぞれの視点から、人類の過去・現在・未来を考える力を養う。これにより、歴史的な見方・考え方による課題の追求・解決を指導する地理歴史科教員の養成を行っている。

・世界史・地理学専修においては、世界史と地理学の2つを柱とし、過去から現在、そして世界から身近な地域まで、幅広く人間社会を理解することを目指す。歴史資料や地理・地図情報を基に、時空間情報を活用しながら研究活動を深めていく。世界史コースでは、現代世界の成り立ちを深層から理解するために、「東洋史」と「西洋史」という従来の枠組みにとどまらない広い視野から、古代から現代にわたる人類の過去を見つめ、独自の歴史像をつくり、現在の問題を探究し、未来を展望する力を養う。そのために、歴史理解の基礎となる文献および史資料の扱いと、歴史をとらえる多様な視点(歴史観)についての確固たる知識を習得する。地理学コースでは、自然地理学・人文地理学・地誌学といった「地理学」の基礎知識を蓄えた上で、フィールドでの情報収集や地理情報システムによる分析の手法を習得し、社会の姿と変容をマルチスケールで実証的に研究する実践力を養う。またその実践力を保証する資格取得を通して、現代社会にシームレスに接続する人材養成を行う。

こうした専修の系統立てた学びの中で、豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、高等学校「地理歴史」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説

明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める、ことを目指す。そして、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 高一種免 公民)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、2年次から16の多彩な専修に分属し、選択した専門分野の知識を体系的に身に付けるとともに、専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、専門性と学際性を深めながら、自ら課題を発見し解決する力を養成するカリキュラムを編成している。そのうえで、具体的には、下記の専修において「公民」科教員の養成のための科目を設置している。

・哲学専修においては、哲学、倫理学、宗教学、芸術学の学問分野において「社会」科教員の養成に次のような学びをとおして寄与している。すなわち、哲学と倫理学においては、古代から近代を経て現代にいたるまでの哲学・倫理学の重要思想を学ぶとともに、鋭敏な問題意識と論理的な思考力をもって新しい問題（環境問題、生命技術、ネット社会のあり方、ロボットやAI等々）や自分自身の考えたいテーマにとりくむ学生を養成している。本専修は他専修・他学部の学生も履修する倫理学概論・哲学概論等の教職関連科目を提供している。そこでは、倫理学や哲学の基礎知識だけでなく、それらを通して人間像や社会のあり方の歴史的変遷にも注意を向けさせ、学際的な関心をもった教師の育成をめざしている。宗教学では、仏教、キリスト教、イスラーム、神道、新宗教などの諸宗教、さらに、日本思想、民間信仰、スピリチュアリティ、現代日本人の宗教意識などの事柄について、宗教学、比較思想学、宗教哲学、仏教学・インド学、日本思想史学、キリスト教学、イスラーム思想史学、神話学、歴史学、人類学など関連するさまざまな分野で培われてきた学術的方法を適用することで得られる、多角的かつ多様な知について学ぶ。それを基盤として、グローバル化、情報化、少子高齢化、孤立化といった現代の諸問題、また、それらに付随する、異文化交流・共生、生きがいの創造、相互理解と扶助等の課題への対応も見据えた、時代を超えて広く通用する豊かな教養、地球的視野に立って時代の変化に適切に対応して生きるための技術と知恵、さらに教員としての職務において実践的に活用し得る専門的知識を習得する。芸術学では古代から現代にいたる芸術活動の本質を、演劇・映画・音楽・アニメーションなどを通して幅広く考察する。

・教育文化専修において、学校教育はもちろんのこと、人間の成長や発達をさまざまな角度から深く考察する教育哲学から、市民性教育、学校現場において急速に変化を遂げている情報機器や情報環境、教育のデジタル化等に対応した情報活用能力の育成（情報リテラシー教育）、図書館情報学、教育法制度など、教育について多角的・総合的に学び、現代の知識基盤社会における生涯にわたる人間形成を総合的に理解する。

・心理学専修において、認知心理学、発達心理学、教育心理学、臨床心理学、文化心理学、芸術心理学などのテーマについて、実験法、アンケート調査、インタビュー調査、行動観察法、フィールドワーク、会話や語りの分析といった多様な手法を駆使してアプ

ローチし、人間や動物の思考・感情・行動を科学的にとらえ、人間性や現代社会における人間の発達や生き方について理解を深める。

なお、教職に関する科目の設置に加えて、中学校「総合的な学習の時間」、高等学校「総合的な探求の時間」の授業運営に対応できる人材育成をも目標にするため、図書館情報学課程の科目や生涯学習関連の科目を大学独自の全免許教科共通科目として設定している。

こうした専修の系統立てた学びの中で、豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修め、高等学校「公民」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める、ことを目指す。そして、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

(文学部 総合人文学科 初等教育学専修 小一種免)

基礎となる学部専門教育において、人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を初年次導入科目で身に付けたのち、16の多彩な専修を横断した学びにより人文学の総合性を俯瞰し、これらの文学部における総合人文学の知をバックグラウンドに、小学校教員として、子どもへのあたたかで真摯なまなざしと責任感をたやさず、教科指導、児童指導、特別活動などの指導、その他教師として必要な資質、能力を理論と実践の双方から学ぶことができるカリキュラムを編成している。

具体的には以下の二つの事項の学修が挙げられる。第一に学校教育における不易の学び取りである。日々目まぐるしく変化を遂げる教育現場の課題解決に対しては目先の付け焼刃の方式や方法等を示した教科書的な内容では歯が立たない。そこでは不易となる先人の教育における哲学、理論、および方法論それぞれの本質をとらえ深い学び取りが必要となる。第二に学生が個性的な教育を創造していく力の育成である。教育現場での実践の困難さが指摘されている中、「こうすればうまくいく」といった対処法に対してはある側面では批判的に捉えることが必要となる。学生が自分事として課題を掴み、自分の中で咀嚼し、自ら個性的な教育を打ち出す実践力を身に付けることを強く望んでいる。これら二つの項目内容に関する学修を通して学生がたしかな実践力を身に付けることを目指し専修教員は支援していく。